



# OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.0

互換性マトリックス

## メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

<b>章 1: 概要</b> .....	<b>4</b>
その他の必要マニュアル.....	4
<b>章 2: サポートされているリソース</b> .....	<b>5</b>
ブラウザと Flash Player の要件.....	5
BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン .....	5
ポート情報.....	7
OpenManage Integration for VMware vCenter 要件.....	9
管理対象ホスト上のサポートされている ESXi バージョン .....	9
Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能 .....	10
PowerEdge サーバーでサポートされる機能.....	10
<b>章 3: 重要なメモ</b> .....	<b>12</b>

# 概要

本書には、OpenManage Integration for VMware vCenter ( OMIVV )、および OMIVV ソフトウェアに付属するその他すべての技術マニュアルに対するアップデートされた情報が記載されています。

OpenManage Integration for VMware vCenter 4.0 は次の機能を提供します

- vSphere 6.5 および 6.0 U2 のサポート
- vSphere 6.5 Proactive HA および Dell ホストとシャーシコンポーネントの重大度をカスタマイズする機能のサポート
- 複数のクラスタ上でのファームウェアの並行アップデートジョブのサポート
- vRealize Operations ( vROPS ) との統合のサポート
- OMSA 8.3 および OMSA 8.4 のサポート
- OMIVV の最新バージョンが利用可能になった場合の通知
- 単一の vCenter インスタンスまたは複数の vCenter サーバを使用した最大 1,000 台のホストに対するサポート
- すべての第 13 世代プラットフォームのサポート

**①** **メモ:** OMIVV 4.0 以降では、VMware vSphere Web クライアントのみがサポートされ、vSphere Desktop クライアントはサポートされません。

**②** **メモ:** vCenter 6.5 以降では、OMIVV アプライアンスは、Flash バージョンでのみ使用できます。OMIVV アプライアンスは HTML5 バージョンでは使用できません。

## プロビジョニングされたストレージに必要な容量

OMIVV 仮想アプライアンスでは、プロビジョニングされたストレージ用に 44 GB 以上のディスク容量が必要です。

## デフォルトの仮想アプライアンスの設定

OMIVV 仮想アプライアンスは、8 GB の RAM と 2 個の仮想 CPU でプロビジョニングされます。

**トピック:**

- [その他の必要マニュアル](#)

## その他の必要マニュアル

次の vSphere Web クライアント用マニュアルのリストについては、[ [Dell.com/support/manuals](http://Dell.com/support/manuals) ] にアクセスしてください。

- 『OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.0 Web Client User's Guide』( OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.0 Web Client ユーザーズガイド )
- 『OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.0 Web Client Installation Guide』( OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.0 Web クライアントインストールガイド )
- 『OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.0 Release Notes』( OpenManage Integration for VMware vCenter 4.0 リリースノート )
- 『OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.0 Compatibility Matrix』( OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.0 互換性マトリクス )

## サポートされているリソース

本章には、OpenManage Integration for VMware vCenter をサポートするリソースに関する情報が記載されています。

トピック：

- ブラウザと Flash Player の要件
- BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン
- ポート情報
- OpenManage Integration for VMware vCenter 要件
- Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能
- PowerEdge サーバーでサポートされる機能

### ブラウザと Flash Player の要件

OpenManage Integration for VMware vCenter を表示するには、システムに最小 1,024 x 768 の画面解像度と、オペレーティングシステムに基づく最小要件を満たす Web ブラウザが必要です。

- ① メモ:** ブラウザと Flash Player の要件は、OpenManage Integration for VMware vCenter に対する VMware ガイドラインの通りです。サポートされる Web ブラウザは、Microsoft Internet Explorer、Google Chrome、および Mozilla Firefox です。具体的なブラウザバージョンについては、お使いの vCenter 用の VMware のマニュアルを参照してください。
- ② メモ:** Windows Server 2012 以降から OpenManage Integration for VMware vCenter にアクセスするには、デスクトップエクスペリエンス機能を有効にして、Flash Player をアクティブにします。すべての ESXi ホストに OpenManage Integration for VMware vCenter (仮想アプライアンス) をインストールします。

表 1. vCenter Server バージョンに対する Flash Player の要件

vCenter バージョン	Flash Player のバージョン
v5.0 ~ v5.5	11.5.0 以降
v6.0 以降	16.0 以降

### BIOS、iDRAC、Lifecycle Controller のバージョン

本項では、OpenManage Integration for VMware vCenter の機能を有効にするために必要な BIOS、iDRAC、および Lifecycle Controller のバージョンを示します。

OMIVV を使用する前に、Server Update Utility (SUU)、Repository Manager、または Lifecycle Controller のプラットフォームを使用して、お使いのサーバのバージョンを次のいずれかにアップデートすることをお勧めします。

表 2. Dell PowerEdge 第 11 世代サーバ向けの BIOS

サーバ	最小バージョン
PowerEdge R210	1.8.2 以降
PowerEdge R210II	1.3.1 以降
PowerEdge R310	1.8.2 以降
PowerEdge R410	1.9.0 以降
PowerEdge R415	1.8.6 以降
PowerEdge R510	1.9.0 以降

表 2. Dell PowerEdge 第 11 世代サーバ向けの BIOS

サーバ	最小バージョン
PowerEdge R515	1.8.6 以降
PowerEdge R610	6.1.0 以降
PowerEdge R710	6.1.0 以降
PowerEdge R710	6.1.0 以降
PowerEdge R715	3.0.0 以降
PowerEdge R810	2.5.0 以降
PowerEdge R815	3.0.0 以降
PowerEdge R910	2.5.0 以降
PowerEdge M610	6.1.0 以降
PowerEdge M610x	6.1.0 以降
PowerEdge M710HD	5.0.1 以降
PowerEdge M910	2.5.0 以降
PowerEdge M915	2.6.0 以降
PowerEdge T110 II	1.8.2 以降
PowerEdge T310	1.8.2 以降
PowerEdge T410	1.9.0 以降
PowerEdge T610	6.1.0 以降
PowerEdge T710	6.1.0 以降

表 3. Dell PowerEdge 第 12 世代サーバ向けの BIOS

サーバ	最小バージョン
T320	1.0.1 以降
T420	1.0.1 以降
T620	1.2.6 以降
M420	1.2.4 以降
M520	1.2.6 以降
M620	1.2.6 以降
M820	1.2.6 以降
R220	1.0.3 以降
R320	1.2.4 以降
R420	1.2.4 以降
R520	1.2.4 以降
R620	1.2.6 以降
R720	1.2.6 以降
R720xd	1.2.6 以降
R820	1.7.2 以降
R920	1.1.0 以降

表 4. Dell PowerEdge 第 13 世代サーバ向けの BIOS

表 4. Dell PowerEdge 第 13 世代サーバ向けの BIOS

サーバ	最小バージョン
R630	1.0.4 以降
T630	1.0.4 以降
R730	1.0.4 以降
R730xd	1.0.4 以降
R430	1.0.2 以降
R530	1.0.2 以降
R830	1.0.2 以降
R930	1.0.2 以降
T130	1.0.2 以降
T330	1.0.2 以降
T430	1.0.2 以降
R230	1.0.2 以降
R330	1.0.2 以降
M630	1.0.0 以降
M830	1.0.0 以降
FC430	1.0.0 以降
FC630	1.0.0 以降
FC830	1.0.0 以降

表 5. 展開用の iDRAC および Lifecycle Controller

世代	バージョン	
	iDRAC	Lifecycle Controller
Dell PowerEdge 第 11 世代サーバ	モジュラーには 3.35、ラックまたはタワーには 1.85	1.5.2 以降
Dell PowerEdge 第 12 世代サーバ	1.00.0 以降	1.0.0.3017 以降
Dell PowerEdge 第 13 世代サーバ	2.30.30.30 以降	2.30.30.30 以降

表 6. クラウドサーバの BIOS と iDRAC の要件

モデル	BIOS	Lifecycle Controller 使用 iDRAC
C6320	1.0.2	2.30.30.30 以降
C4130	1.0.2	2.30.30.30 以降

## ポート情報

### 仮想アプライアンスと管理ノード

OMIVV で [ 非対応 vSphere ホストの修正 ] ウィザードの [準備ホストの修正](#) リンクを使用して OMSA エージェントを導入する場合、OMIVV では次のアクションを実行します。

- HTTP クライアントサービスを開始する
- ポート 8080 を有効にする
- ESXi 5.0 以降で OMSA VIB をダウンロードしてインストールするためのポートを開放する

OMSA VIB のインストールが完了したら、サービスは自動的に停止し、ポートは閉じられます。

表 7. 仮想アプライアンス

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
21	FTP	TCP	なし	出力	FTP コマンドクライアント	無
53	DNS	TCP	なし	出力	DNS クライアント	無
80	HTTP	TCP	なし	出力	Dell オンラインデータアクセス	無
80	HTTP	TCP	なし	入力	管理コンソール	無
162	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	SNMP エージェント (サーバー)	無
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	HTTPS サーバー	無
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力 / 出力	iDRAC/OMSA 通信	無
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	自動検出	無
2049	NFS	UDP/TCP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	無
4001~4004	NFS	UDP/TCP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	無
5432	Postgres	TCP	128 ビット	入力 / 出力	PostgreSQL	無
11620	SNMP エージェント	UDP	なし	入力	SNMP エージェント (サーバー)	無

表 8. 管理対象ノード

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
162、11620	SNMP	UDP	なし	出力	ハードウェアイベント	無
443	WSMAN	TCP	128 ビット	入力	iDRAC/OMSA 通信	無
4433	HTTPS	TCP	128 ビット	出力	自動検出	無
2049	NFS	UDP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	無
4001~4004	NFS	UDP	なし	入力 / 出力	パブリック共有	無
443	HTTPS	TCP	128 ビット	入力	HTTPS サーバー	無
8080	HTTP	TCP		入力	HTTP サーバ (OMSA VIB をダウンロードし、非準拠 vSphere ホストを修正)	無
50	RMCP	UDP/TCP	128 ビット	出力	リモートメールチェックプロトコル	無
51	IMP	UDP/TCP	なし	該当なし	IMP 論理アドレスメンテナンス	無
5353	mDNS	UDP/TCP		入力 / 出力	マルチキャスト DNS	無

表 8. 管理対象ノード

ポート番号	プロトコル	ポートタイプ	最大暗号化レベル	方向	使用状況	設定可能
631	IPP	UDP/TCP	なし	出力	インターネット プリンティング プロトコル(IPP)	無
69	TFTP	UDP	128 ビット	入力/出力	トリビアルファイ イル転送	無
111	NFS	UDP/TCP	128 ビット	入力	SUN リモートプ ロシージャコー ル(ポートマッ プ)	無
68	BOOTP	UDP	なし	出力	ブートストラッ ププロトコルク ライアント	無

## OpenManage Integration for VMware vCenter 要件

### 管理対象ホスト上のサポートされている ESXi バージョン

次の表は、管理対象ホスト上でサポートされている ESXi バージョンに関する情報を提供するものです。

表 9. サポートされている ESXi バージョン

ESXi バージョンサポ ート	サーバの世代		
	第 11 世代	第 12 世代	第 13 世代
v5.0	はい	はい	いいえ
v5.0 U1	はい	はい	いいえ
v5.0 U2	はい	はい	いいえ
v5.0 U3	はい	はい	いいえ
v5.1	はい	はい	いいえ
v5.1 U1	はい	はい	いいえ
v5.1 U2	はい	はい	はい
v5.1 U3	はい	はい	はい ( M830、FC830、 FC430 を除く )
v5.5	はい	はい	いいえ
v5.5 U1	はい	はい	いいえ
v5.5 U2	はい	はい	はい
v5.5 U3	はい	はい	はい
v6.0	はい	はい	はい
v6.0 U1	はい	はい	はい
v6.0 U2	はい	はい	はい
v6.5	いいえ	はい	はい

OpenManage Integration for VMware vCenter は、次の vCenter サーババージョンのすべてをサポートします。

表 10. サポートされている vCenter サーババージョン

表 10. サポートされている vCenter サーババージョン

vCenter バージョン	ウェブクライアントサポート
v5.1 U2	いいえ
v5.1 U3	いいえ
v5.5 U1	はい
v5.5 U2	はい
v5.5 U3	はい
v6.0	はい
v6.0 U1	はい
v6.0 U2	はい
v6.5	はい

① **メモ:** vCenter サーバを登録する方法の詳細については、[Dell.com/support/manuals](http://Dell.com/support/manuals) で提供されている『OpenManage Integration for VMware vCenter Version 4.0 Web Client Install Guide』( OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.0 Web クライアントインストールガイド ) を参照してください。

OpenManage Integration for VMware vCenter バージョン 4.0 は、次の VMware vRealize Operations Manager ( vROPS ) バージョンをサポートします。

表 11. サポートされている vROPS バージョン

vRealize Operations Manager 用 OpenManage Management Pack	vROPS バージョン
v1.0	v6.3 以降

## Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能

本章には、Dell PowerEdge シャーシでサポートされる機能に関する情報が記載されています。

表 12. モジュールインフラストラクチャでサポートされる機能

外観	M1000e	VRTX	FX2S
SNMP アラート	はい	はい	はい
ハードウェアインベントリ	はい	はい	はい
CMS のリンクと起動	はい	はい	はい
ライセンス情報	該当なし	はい	はい
保証情報	はい	はい	はい
正常性レポート	はい	はい	はい

## PowerEdge サーバーでサポートされる機能

次の機能は、OpenManage Integration for VMware vCenter によって管理されているホスト上でサポートされるものです。

表 13. PowerEdge サーバーでサポートされる機能

Resource	プラットフォーム		
	11 日	12 日	13 日
ハードウェアインベントリ	はい	はい	はい

表 13. PowerEdge サーバーでサポートされる機能

Resource	プラットフォーム		
	11 日	12 日	13 日
イベントとアラーム	はい (SNMP v1 のみ)	はい (SNMP v1 および v2)	はい (SNMP v1 および v2)
コンポーネント毎の正常性監視*	はい	はい	はい
BIOS / ファームウェアアップデート**	はい	はい	はい
Proactive HA***	いいえ	はい	はい
保証情報	はい	はい	はい
ホスト準拠	はい	はい	はい
ベアメタルサーバの自動 / 手動検出	はい	はい	はい
ベアメタル準拠	はい	はい	はい
ハードウェア構成	はい	はい	はい
ベアメタルハイパーバイザー展開	はい	はい	はい
サーバー LED の点滅	はい	はい	はい
SEL ログの表示 / クリア	はい	はい	はい
iDRAC のリンクと起動	はい	はい	はい
iDRAC のリセット	はい	はい	はい

\*モデル番号 C6320 のクラウドでは、メザニンカードの正常性監視はサポートされていません。

\*\*モデル番号 C6320 のクラウドでは、メザニンカードのファームウェアアップデートはサポートされていません。

\*\*\*Proactive HA 機能は、ESXi 6.0 以降を搭載する vCenter 6.5 以降にのみ適用されます。

## 重要なメモ

本項では、OpenManage Integration for VMware vCenter で作業しているときに考慮する必要がある重要情報について説明します。

- OMIVV は、ターゲットサーバにハイパーバイザーを展開するために BIOS モードをサポートします。ハイパーバイザープロファイルを適用する前に、参照ハードウェアプロファイルで BIOS モードが選択されていることを確認してください。ハードウェアプロファイルが選択されていない場合は、手動で起動モードを BIOS に設定し、サーバを再起動してからハイパーバイザープロファイルを適用するようにしてください。
- OMIVV は、現在「Public」または「public」という名前のコミュニティのみをサポートしています。SNMP コミュニティ名は設定できません。別のコミュニティ名が使用されている場合、OMIVV によってイベントが受信されないため、イベントは VMware vCenter には表示されません。
- 参照サーバの BIOS バージョンによっては、そのサーバで作成されたハードウェアプロファイルが展開失敗の原因となる場合があります。一部の BIOS バージョンは、内蔵 NIC1 および NIC2 設定などの特定の BIOS 設定に対して正確な情報を提供しません。ハードウェアプロファイルで最小の BIOS バージョンのサーバを参照サーバとして使用すると、それらのフィールドは UI および展開の両方によって無視されます。これにより問題が発生します。ただし、問題が発生するのは、展開を正常に完了するために当該設定に特定の値が必要である場合です。この問題を解決するには、最新 BIOS を備えたサーバをハードウェアプロファイルの参照サーバとして使用します。
  - ① **メモ:** 展開に使用されるサーバでは、BIOS もアップデートされている必要があります。BIOS に問題があるサーバに対して展開時に設定を適用しようとする、展開が失敗します。現在、BIOS バージョンは、対応性についてチェックされませんが、サーバ準拠 ページには表示されません。影響を受けるハードウェアプロファイルを含む展開テンプレートを展開時に選択すると、ハードウェアプロファイル参照サーバ ページと BIOS 設定 ページに警告が表示されます。
- FQDN (完全修飾ドメイン名) を使用して VMware vCenter に OMIVV を登録することを強くお勧めします。FQDN ベースの登録では、vCenter のホスト名は DNS サーバによって適切に解決される必要があります。
  - ① **メモ:** vSphere の DNS の要件の詳細については、次のリンクを参照してください。
    - [vSphere 5.5 の DNS 要件](#)
    - [vSphere 6.0 の DNS 要件](#)
    - [vSphere 6.5 および Platform Services Controller アプライアンスの DNS 要件](#)